

## 平成 27 年度第 1 回美祢市行政改革推進委員会 会議録（概要）

日 時 平成 27 年 9 月 16 日（水）14 時から 15 時

場 所 市役所本庁 3 階 1・2 会議室

出席委員 小林法子委員、永嶺克博委員、飯田昭一郎委員、今村武久委員、小方和子委員  
永井政夫委員、末永義美委員、高橋紀之委員、中野博道委員

欠席委員 秋月孝二委員、秋山貴文委員、

事務局 藤澤総合政策部長、企画政策課：佐々木課長、岩崎課長補佐、印藤

### 【概要】

#### 1 開会

#### 2 会長あいさつ（今村会長）

#### 3 議事

##### (1) 平成 26 年度行政改革大綱進捗状況報告について

事務局 資料に基づき説明

委員からの主な意見・質問の要旨	事務局の回答等の要旨
職員ハンドブックについて見せていただけないか。	持ち返りまして、公開できるかどうか判断させていただきたい。
審議会に女性や障害のある方の参加の枠を設けるなどをして参加を促していただけないだろうか。	今後私どもも色々な立場の方、色々な物の考えをした方を多様に登用して、政策を決定していくプロセスを作っていくようにしたいと思います。
障害者の雇用について、物理的な職員配置（1階の勤務等）をよく検討していただきたい。	市としてもいろんなハンディキャップを持った方がいらっしゃった場合に、その方の能力を最大限発揮できるようなシステムはとても大事だと思います。現在、美祢市は「ともに生きる」という基本理念を掲げてすべての人の人権が尊重され、その人の個性が最大限発揮されるような社会を目指していますので、市もそういった体制づくりに努めていきたいと思います。
男女共同参画は、現在地域福祉課で所管されていますが、行政の中でも重要な課題ですので、総合政策的な位置づけ（所管）で推進していただきたい。	現在、地域福祉課で行っているのは、女性という性差によって差別されないという人権問題として捉えているからであります。 ただ、おっしゃるような政策的にもっと引っ張っていく提案が必要だと思いますの

	<p>で、今後の組織の事業内容の検討の際には参考にさせていただきます。</p>
<p>育ボスという言葉も聞かれますが、子育て中の女性職員が帰りやすくするための声かけ等まず市役所が率先して取り組んでいただきたい。</p>	<p>もちろん、女性の職員、母親としての役割が大きいですから、女性職員への配慮も必要ですが、それと同時に男性職員も家庭としての役割が重要ですので、性差なく市職員として子育てについて、積極的に取り組めるよう、我々も全力をあげて取り組んでいきたいと思ひます。</p>
<p>男性の育児休暇を取られた方という実績はありますか。</p>	<p>男性の中にも非常に前向きな市の職員もおりまして、以前取る予定というような話を聞いたことがありますが、実際に取られたか確認しておりません。</p>
<p>過疎、高齢化が進む中山間地域である美祢市において地域のリーダーの活動が大変意義があるのですが、たくさん問題を抱えておられます。宇部市では中山間地域支援員が6名いらっしゃるという話を聞きましたが、美祢市も支援員のような制度を是非考えていただけないでしょうか。</p>	<p>美祢市は中山間地域にあり、地域固有な問題を抱えています。地域の自立のためには、いろいろな人材が必要です。市を挙げて育てていく仕組みをつくっていかないとはいけません。また、職員の質の向上、あるいは、地域課題に耳を傾ける地域審議会等をもっと機能化させるように取り組んでいきたいと思ひます。</p>
<p>行政改革の財政効果額がありますが、大半が定員管理、職員数の減少が占めています。一方で、人口減少、少子高齢化が進んでいますが、人員配置、専門家としてどれだけ人を活用しているにか。有能な人がやめるなど危惧する面もありますがどうでしょうか。</p>	<p>行政需要が多様化し、質も上がる中で、サービスの質をどのように担保するかということですが、一つは、できるだけ民の力を活用して、人件費から物件費へ移行していきます。また、職員数が減ったとき、昨日より今日、今日より明日、未来がもっと質の高い職員になるよう研修、人材育成に努め、サービスの質を担保していきたいと思ひます。</p>
<p>指定管理施設の中うまくいっているところが分かれば教えていただきたい。</p>	<p>指定管理者導入により質があがっていれば、成功だと一応結論づけています。そういう面では本市において大きな失敗はないと考えております。</p>